

他の人の大切さを認める / インターネットと人権

7

思いを伝えるのはむずかしい

1 ねらい

電子メールやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）など、インターネットを利用したコミュニケーションにおいて生じる問題について、その状況や原因などを考えることを通して、よりよいコミュニケーションのあり方について理解を深め、相手のことを考え尊重しようとする意欲・態度を養う。

2 準備するもの

- ワークシート
- ワークの場面2の①～③のメッセージを拡大したもの（黒板掲示用）

3 解説

インターネットは、電子メールやSNSに代表されるように、誰もが自由に情報の受信・発信ができ、世界と瞬時につながる便利なものです。総務省「平成28年版情報通信白書」によれば、13歳から59歳までの年齢層におけるインターネット利用状況は、各年齢層で9割を超えています。また、6歳から12歳までの年齢層においても7割を超え、全体的に増加傾向が続いています。このように、インターネット環境が整備され、多くの子どもたちがその利便性を享受しているという状況です。しかし、その一方で、インターネットの中では、他者への誹謗・中傷、差別を助長する表現、有害な情報、個人情報の流出など、人権侵害ともいえる多くの問題が発生しています。子どもたちの間でも、無料通話アプリやSNSなどに悪口や人を傷つける言葉を書き込むなどの問題も起こっており、いわゆる「ネットいじめ」は、子どもの人権を脅かす深刻な問題となっています。さらに、書き手に他人を傷つける意図がなくても、SNSの書き込みを読み手が誤解して、トラブルに発展してしまう事例も少なくありません。

平成28年の神奈川県いじめ防止対策調査会答申では、「無料通話アプリが関係しているネットいじめについては、（中略）お互いの顔が見えない状況での短文でのやりとりや隠語等の独特な言葉遣いやルールにより、誤解や曲解が生じやすく、結果的に『いじめ』を受ける子ども達の被害を大きくすることにつながっている」と指摘されています。さらに「コミュニケーションは本来、表情やニュアンス、動作等の複数の要素を複合することにより深みを増すものであるのに、短い文章だけで行われるネット上のコミュニケーションにはそのような要素が欠損しているため、奥行きのない非常にいびつなものになりがちである」と述べられています。

このワークでは、直接会うコミュニケーションと携帯電話のメッセージによるコミュニケーションを比較することで、どちらの場合でも、相手を大切にするという人権尊重の考え方が大切であることに気づき、小学生の段階から情報発信者として相手のことを考え、尊重する態度を養います。

4 進め方（展開例）45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 6分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（4分）</p> <p>「表情リレー」</p> <p>①教室の列ごとにチームを作り、伝言ゲームの要領で指示された表情を順番に伝言して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・声を出してはいけないことを確認する。 ・伝言する表情の指示書として、「みんなの

	<p>いく。その際、伝言を受ける人以外には表情が見えないようにする。</p> <p>②難しかったことやよく伝わったことなどを、全体に発表し共有する。</p> <p>③まとめの話を聞く。</p>	<p>前でほめられて照れ笑い」「宿題を忘れて苦笑い」「遅刻しそうだけど間に合っただけの笑顔」など微妙なニュアンスを含む文を用意する。</p>
<p>展開 31分</p>	<p>◆アクティビティ (31分) 「思いを伝えるのはむずかしい」</p> <p>①場面1・2の状況を聞く。</p> <p>②Cさんの返信を受け、Aさんが悲しくなった理由を考え、ワークシートに書く。</p> <p>③②について、全体に発表し共有する。</p> <p>④場面1と2のAさんの気持ちを比較し、ちがいを考え、ワークシートに書く。</p> <p>⑤④について、グループで意見交換をする。</p> <p>⑥自分ならどのように伝えるかを考え、ワークシートに書く。</p> <p>⑦⑥について、全体に発表し共有する。</p>	<p>・「場面1」は感情豊かに、表情や身ぶりをつけて朗読する。</p> <p>・「場面2」のふきだしの部分は朗読せず、①～③のメッセージを一枚ずつ黒板に掲示する。</p> <p>① あさって、いっしょにお祭りに行かない? ② ムリ ③ ピアノの発表会</p> <p>・Cさんのメッセージ「ムリ」を掲示したあと、児童が反応する時間をとるとよい。</p> <p>・場面1では、Aさん、Bさんの様子が記述されていることに着目させ、表情や言葉の抑揚など非言語コミュニケーションの大切さを理解するように促す。</p>
	<p>◆まとめ (8分)</p> <p>・まとめの話を聞く。</p>	<p>・授業を通して児童から出された意見などをもとに、ねらいをおさえまとめる。</p>
<p>まとめ 8分</p>	<p>・相手と顔を見合わせたコミュニケーションでは、言葉だけでなく表情や様子から相手の心情を推測することができるため、意思疎通を円滑におこなうことができる。</p> <p>・メールなどでは表情や様子が伝えられないと同時に、短いメッセージとなりやすいため、誤解を招きやすく、より相手を思いやることが大切である。</p> <p>・相手の気持ちを全て理解することは難しいが、どちらの場合も、相手の気持ちを考え、行動することが重要である。</p> <p>※「相手を大切にするとともに、自分を大切にし、それを行動に表せる」という人権教育のねらいを理解させたい。</p> <p>・ふりかえりをワークシートに書く。</p>	<p>・時間があれば、理解の深まっている児童の感想を取り上げてもよい。</p>

<参考資料など>

- ・「平成28年版 情報通信白書」総務省（平成28年）
- ・「神奈川県いじめ防止対策調査会 答申書」神奈川県いじめ防止対策調査会（平成28年1月）

思いを伝えるのはむずかしい

()年 ()組 名前 ()

夏休みのある日、Aさんは仲のよい友だちのBさん、Cさんをさそって、お祭りに行こうと思いました。

場面1

Bさんは近所に住んでいるので、直接さそいに行きました。

「Bさん、あさって、いっしょにお祭りに行かない？」

Bさんは、それを聞いて残念そうな顔で言いました。

「あさって？行きたいんだけど、実は明日から家族で旅行に行く予定なんだ。だから、あさってのお祭りは行かないや。せっかく誘ってくれたのにごめんね。」

Aさんは残念に思いましたが、Bさんが申しわけなさそうに断る様子を見て、気にしないでほしいなと思って言いました。

「そう。分かった。家族旅行に行くなら、しかたがないね。旅行、楽しんできてね。」

場面2

Cさんは家が遠いので、ケータイでメッセージを送りました。

①

しばらくしてCさんから返信がありました。

②

③

Aさんは、残念に思うと同時に、ちょっと悲しくなりました。

1 Cさんの返信を見たAさんは、なぜ悲しくなったのでしょうか。

2 Bさんに断られたときのAさんの気持ちと、比べてみましょう。どんなちがいがありますか。またその理由も考えましょう。

3 もし、あなたがCさんだったら、どのようにメッセージを送りますか。

4 今日の授業を通して感じたことや、あなたがこれからの生活で気をつけようと思ったことについて書きましょう。

自分や他の人の大切さを認める

8

大切にしたい一人ひとりの権利

1 ねらい

権利の順位づけをする活動を通し、自分たちが生きる上で欠かせない権利の大切さを考えるとともに、お互いの権利を尊重しようとする。一人ひとりの考え方や大切にしたいことにはちがいがあり、多様な考えを認め合うことの大切さに気づく。

2 準備するもの

- ワークシート
- アイスブレイキング用の紙
- 拡大したダイヤモンドシート（グループワーク用）
- 拡大した権利カード（グループワーク用）

3 解説

「子どもの権利」は、世界中のすべての子どもたちが持っている「権利」です。その「権利」について定めた「児童の権利に関する条約」（以下「子どもの権利条約」という。）は、1989年に国際連合総会で採択された、子どもの人権に関する世界で最初の国際的な条約です。日本は1994年に批准しました。「子どもの権利条約」は、子どもの人権の尊重を保障することを目的とし、全54条で構成されています。この条約では、18歳未満のすべての人を子どもと定義し、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つの権利を柱としています。

このワークでは、条文の中から、自分が大切にしたい権利を選び、順に並べていく活動を行います。自分が大切にしたい権利は何かを考え、また、他の人が大切にしたい権利を知り相互理解を図る中で、「権利」の大切さについて考えていきます。さらに、このワークを通して、すべての子どもたちが権利を持っており、それらの権利は守られるべきであることを知るとともに、自分や他の人の権利が守られるようにするためにできることを考えていく意欲や、自分も他の人も大切にしていこうとする姿勢を育てていきます。

4 進め方（展開例）50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 6分	<p>◆学習の確認（1分）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（5分）</p> <p>「どんなかたち？」</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「月」「花」「パン」の絵を描く。 ②グループで見せ合う。 ③グループで活動の感想を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 三日月と満月、チューリップとヒマワリなど、自分と他の人のイメージが異なることが実感できるよう、合図があるまで人に見せないように伝える。
	<ul style="list-style-type: none"> • 同じものを提示しても、人によって思い浮かべるイメージが異なることに気づく。 • 正解は一つではないことから、一人ひとりのちがいを認める大切さに気づく。 	

<p>展開 39分</p>	<p>◆アクティビティ (39分) 「あなたにとって大切だと思う権利はどれですか？」</p> <p>①「権利」の意味を確認し、9つの「権利」についての説明を聞く。</p> <p>②自分にとって大切だと思う権利の順位を決めてダイヤモンドシートに書く。</p> <p>③グループで、②で決めたランキングの1位と5位の権利について、選んだ理由とともに発表する。</p> <p>④グループで話し合って9つの「権利」をランキングし、グループ用のダイヤモンドシートに並べる。</p> <p>⑤④について、各グループの1位と5位の権利を選んだ理由とともに全体に発表し共有する。</p> <p>⑥各グループが5位に選んだ権利について、もし、その権利がなくなったらどのようなことが起きるかを考え、全体で意見交換をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの権利について共通理解できるように、必要に応じて意味を補足する。 グループ活動の時間を確保するため、個人で考えるときには、ダイヤモンドシートの中にア～ケを書く。 同じ高さに置いたものは同じ順位と考えてよいことを伝える。(2位と4位は2つ、3位は3つ) 他の人の考えを聞き、肯定的に理解することが大切だということを伝える。 生徒の実態に応じて、事前に権利カードを切りとったり、両面テープをつけたりしておく。 意見が分かれ、決められない場合は、無理に確定しなくてよいことを伝える。また、その場合は⑤でその経緯を発表するように伝える。 多様な意見があることに気づくように各グループのダイヤモンドシートを掲示する。 権利が守られていない(奪われた)状況を想像できるように、その権利がないとどのようなことに困ってしまうかなど、具体的な状況を考えるように促す。
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめの話を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと他の人の考えに違いがあることは当たり前である。グループで意見を調整する活動を通して、自分の意見を伝えたり、相手の意見を理解したり、ちがいを尊重することが大切である。 「子どもの権利」は、「生きていたい」「自由でいたい」「幸せでいたい」という願いをかなえるために、世界中のすべての子どもたちが持っている権利であり、すべて大切な権利であること、自分にも他の人にも同じように権利が保障されていることを知る。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ふりかえりをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して生徒から出された意見などをもとに、ねらいをおさえまとめる。 世界には「子どもの権利」が守られていない子どもたちがいることなどにふれる。

<参考資料など>

「子どもの権利条約」公益財団法人日本ユニセフ協会ウェブサイト

あなたにとって大切だと思う権利はどれですか

()年 ()組 名前 ()

次の9つの権利を、あなたにとって大切だと思う順番に、ダイヤモンドシートにならべてみましょう。

ア 国のちがいや、男か女か、どんな宗教を信じているか、どんな意見をもっているか、心やからだに障がいがあるかないか、お金持ちであるかないかなどによって差別されない権利

イ 自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利

ウ 自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利（ただし、ほかの人に迷惑をかけてはいけない）

エ 自分のこと、家族の暮らし、住んでいるところなど、人に知られたくないときは、それを守ることができる。また、他人からほこりを傷つけられない権利

オ 病気になったときや、けがをしたときには、治療を受けることができる権利

カ 心やからだのすこやかな成長に必要な生活を送る権利

キ 教育を受ける権利

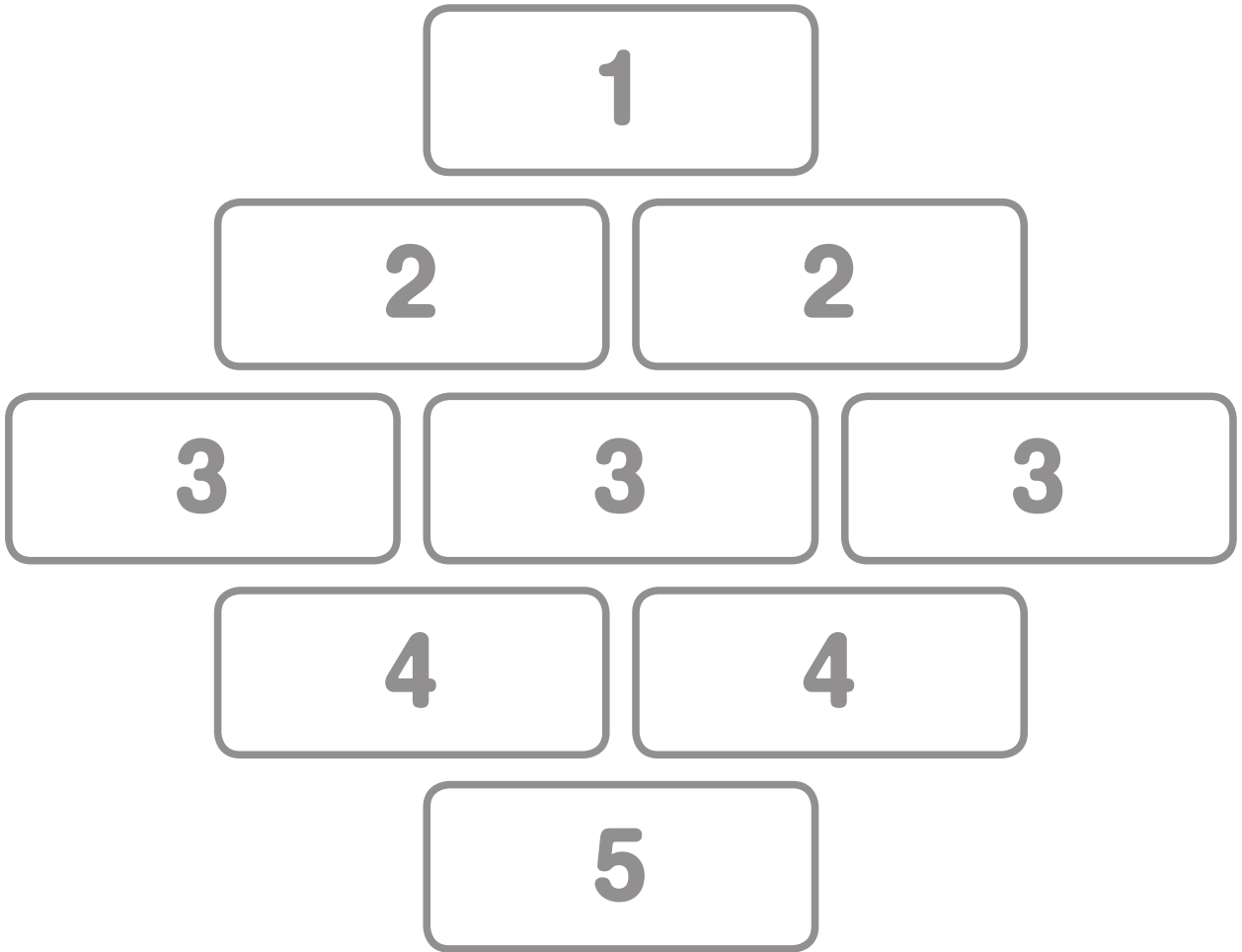
ク 休んだり、遊んだり、文化・芸術活動に参加する権利

ケ むりやり働かされたり、そのために教育を受けられなくなったり、心やからだによくない仕事をさせられたりしないように守られる権利

今日の授業を通して感じたことや、権利について考えたことを書きましょう。

ダイヤモンドシート

ア～ケの権利を大切だと思う順番にならべてみましょう。



権利カード

(グループワーク用)
※話し合いがしやすいように、短い言葉でまとめています。

- | | | |
|------------------------------|-------------------------|------------------------------------|
| ア 差別されない | イ 意見を表す | ウ 伝える・知る |
| エ プライバシーや
ほこりを守られる | オ 治療を受ける | カ 心やからだの
成長に必要な
生活を送る |
| キ 教育を受ける | ク 休んだり
遊んだりする | ケ むりやり
働かされない |

いじめについて考える

9

居心地のよいクラスについて考えよう

1 ねらい

クラスの中で起きたことについて、当事者や周りの人など、それぞれの立場の人の気持ちを考えることを通して、いじめを受けた生徒の気持ちに寄り添ったり、いじめについて客観的に考えたりし、いじめについての正しい判断力を養う。

2 準備するもの

○ワークシート

3 解説

学校生活においては、子どもたちがよさを認め合い、助け合いながらお互いを高めていくことのできる関係づくりが理想です。しかし、現実を目を向けると「意見が合わない」ことによるいさかいから、「異質なものを排除しようとする差別意識」によるいじめまで、様々な場面でのトラブルやいじめは後を絶ちません。

「いじめ」は、特定のクラスや集団などにおいてのみ発生するものではなく、集団で生活する以上、どこでも起き、誰もが被害者または加害者になる可能性があります。

そのような「いじめ」を解決していくためには、いじめの発生を防ぐ「予防」と、発生しているいじめを止める「対処」が必要となります。

このワークには、遊んでいるように見える二人と、それを笑いながら見ている人、無関心な人が登場します。二人の行為は「いじめ」のように見えますが、いじめられている本人は、ただ遊んでいるだけだと主張しています。

この場面を読んで、子どもたちが客観的な立場で仲間と一緒に考え、様々な意見を出し合うことで、身近な人権課題である「いじめ」について理解を深め、予防と対処の両側面から考える機会とします。

4 進め方（展開例）50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 5分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（3分）</p> <p>「ほめ合い自己紹介」</p> <ol style="list-style-type: none"> ①グループで順番を決め、最初の人自分の好きなものや得意なことを言う。 ②他の人は順に最初の人をほめる。 ③全員がほめたら、お礼を言い、次の人に交代する。 ④全員が①～③を行う。 ⑤グループで活動の感想を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループで行う。 ・アクティビティも含め、他の人の回答に対して共感的に受け止めるように声をかけ、肯定的でない言動があった場合は、毅然とした対応をする。
	<p>・他の人から認められたりほめられたりすると、自分のよさに気づくことができると感じる。</p>	

<p>展開 40分</p>	<p>◆アクティビティ (40分) 「居心地のよいクラスについて考えよう」</p> <p>①場面の状況を聞く。</p> <p>②このクラスの課題について考え、ワークシートに書く。</p> <p>③誰もが居心地のよいクラスにするためにはどうしたらよいか考え、ワークシートに書く。</p> <p>④②③について、グループで意見交換をし、気づいたことや考えたことをワークシートに書く。</p> <p>⑤④について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 記入の段階では授業者が生徒に働きかけないようにする。 • 誰もが＝すべての人が居心地がよいという点を意識するよう促す。 • 必要に応じて「別に。僕たちただ遊んでいるだけだから・・・」というAさんの発言や、「大丈夫？」と声をかけたDさん、無関心でいるEさんの心情についても取り上げるようにする。 • 「いじめ」と捉えているグループにその理由を聞いたり、登場人物それぞれがどう行動すべきかを全体で考えたりして、共有する。
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> • まとめの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業を通して生徒から出された意見などをもとに、ねらいをおさえまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> • Bさんの行動はいじめであるか、そうでないかについて考えることが大切である。 • Aさんはいじめではないと言っているが、素直に気持ちを話していないかもしれないことに気づく。 • もし、Aさんが本心でいじめではないと思っていたとしても、Aさんの気持ちに関わらず、Aさんは尊重されていないことに気づく。 • ある行為がいじめであるかどうかは、当事者の意識はもとより、行為の客観的な中身についても考える必要があることに気づく。 • 無関心でいる人は、被害者からみると加害者になるという点について確認する。 </div>

居心地のよいクラスについて考えよう

()年 ()組 名前 ()

これから紹介する場面を通して、誰もが居心地のよいクラスにするためにはどうしたらよいか、考えてみましょう。

ある日の昼休み、AさんとBさんがふざけながら教室に入ってきました。

Bさん (Aさんの頭をたたきながら)
「さっきの授業、あんな簡単な問題なのに答えられないの？」

Aさん 「えへへ。」

CさんとDさんは、いつもの二人のやりとりを笑いながら見ていました。

BさんはAさんの頭をたたきながら、なおもからかっています。Aさんは笑って応じながらお弁当箱を出しました。

Bさん 「おっ、今日の弁当も豪華だな。ソーセージくれよ。」

BさんはAさんの弁当箱から勝手にソーセージを取り、食べてしまいました。

Bさん 「そっちの卵焼きもオレ様に食べられたがってるぜ！しょうがないから、食べてやるよ！」

それを見ていたCさんは、大きな声で笑い出しました。それにつられて周りにいた人たちもクスクス笑っています。

Bさんは次々とAさんの弁当のおかずを食べたあげく、後ろの席で読書をしていたEさんに話しかけました。

Bさん 「おまえも食べたいだろ？味は保証しないけどな。」

Eさんは迷惑そうに顔をあげましたが、すぐにまた本を読み始めました。

Bさん 「ちえっ、うまくないから、Eは食べたくないってよ！」

そう言って、Bさんはどこかへ行ってしまいました。

この様子を見ていたDさんは、Aさんがかわいそうになり、Aさんに声をかけました。

Dさん 「Aさん大丈夫？」

Aさん 「別に。僕たち、ただ遊んでいるだけだから・・・」

Aさんはそう答えました。

1 この場面の課題は何だと思いますか。あなたの意見を書きましょう。

2 このクラスを、誰もが居心地のよいクラスにするためにはどうすればよいと思いますか。あなたの意見を書きましょう。

3 1、2についてグループで意見交換をし、気づいたことや考えたことを書きましょう。

人権尊重の視点で見直そう

10

よく見てみよう

1 ねらい

学校生活の中にある人権に関わる問題に気づき、自分の問題として考える。人によって見方や感じ方がちがうことに気づいたり、互いの意見を認め合ったりすることを通して、自他の人権を尊重しようとする意識を高める。

2 準備するもの

- ワークシート1～3
- ワークシート3を拡大したもの（黒板掲示用）

3 解説

人権教育においては、人権に関する知的理解を深めるとともに、人権感覚を育成することが必要です。学校生活において、教室環境や友達との関わりで「いやだな」「何かおかしいな」と思うことがあっても、その場の状況で、特に取り上げられることなく過ぎ去ってしまうような場面があります。しかし、その時は大きな影響はなくても、そのようなことが積み重なり、人間関係が悪化したり、不登校やいじめの要因になったりすることも考えられます。

このワークでは学校生活を見直し、自分はどのような行為を人権が尊重されている、侵害されていると感じるのか考えることから始めます。そして、お互いに感じたことを伝え合うことにより、人によって見方が異なったり、感じ方がちがったりすることに気づくとともに、自分の人権に対する意識を考える機会とし、自分や他の人の気持ちを大切にしようとする姿勢を育てることをねらいとしています。

4 進め方（展開例）50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「何に見えるかな？」</p> <p>①ワークシート1の1～3の図がどのように見えるか、まずは個人で考え、グループで意見交換をする。</p> <p>②①について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループで行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【見え方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2人が向かい合っている様子と壺 2 黒い部分に着目するとLIFEの文字が見える。 3 うさぎと鳥 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・見る位置や焦点・角度を変えるとちがうものが見える。このように物事を様々な角度から見ようとする柔軟性が大切である。 </div>

<p>展開 35分</p>	<p>◆アクティビティ (35分) 「よく見てみよう」</p> <p>①「人権」及び「人権の尊重」についての説明を聞く。</p> <p>②ワークシート3について、「人権が尊重されている場面」「どちらともいえない場面」「人権が侵害されている場面」の視点で考え、該当する場面とそう考える理由をワークシート2に書く。</p> <p>③②について、グループで意見交換をする。</p> <p>④③について、全体に発表し共有する。</p> <p>⑤意見が分かれたものについて、全体で意見交換をする。</p> <p>⑥②について見直ししながら、ふりかえりをワークシート2に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート3を黒板に掲示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【説明の例】 人権とは、「生きていたい」「自由でいたい」「幸福でいたい」という、すべての人に共通する三つの願いを支えるものであり、「人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」のことであります。 人権の尊重とは、自分と他の人の人権を正しく理解し、相互に尊重し合うこと、つまり「自分の大切さを認めるとともに、他の人の大切さを認めること」です。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> グループ活動の時間を確保するために、イラストに○をつけたり、ア～ウを書いたりし、その中で特に気になる場面についてワークシート2に書くように伝える。 理由は書ける範囲でよいことを伝える。
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめの話を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活の中にある人権に関わる問題に気づき、自分のこととして考えたり、日常にある問題に気づいて理解を深めたりする。 人によって見方や感じ方がちがうことに気づき、自他の人権を尊重しようとする意識を高める。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して生徒から出された意見などをもとに、ねらいをおさえまとめる。 生徒の実態に応じて、資料を参考に、いじめ、交際相手からの暴力、男女共同参画社会など人権課題に関わる内容について補足する。

※ 小学校高学年を対象とした同様のワークが、「人権学習ワークシート集—人権教育実践のために 第13集(小・中学校編)—」に掲載されていますので、参考にしてください。

何に見えるかな？

()年 ()組 名前 ()

次の1～3の図を見て、それぞれどのように見えるかグループで意見を出し合しましょう。

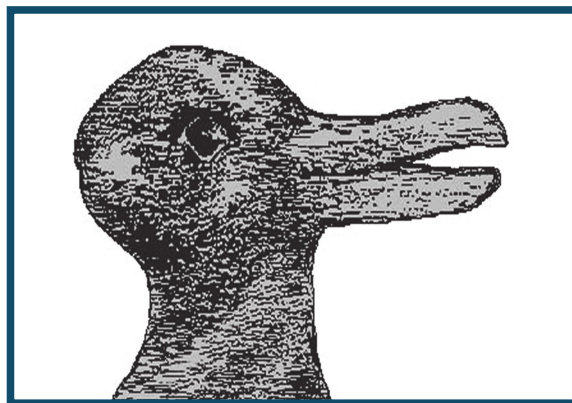
1 何が見えますか。



2 何が見えますか。



3 何に見えますか。



<参考資料など>

「イリュージョンフォーラム」NTTコミュニケーション科学基礎研究所

よく見てみよう

()年 ()組 名前 ()

- 1 ワークシート3のイラストについて、「人権が尊重されている場面」「どちらともいえない場面」「人権が侵害されている場面」に分けてみましょう。また、そう思う理由も書きましょう。

ア 人権が尊重されている場面

場面 (例：A - 1)	理 由

イ どちらともいえない場面

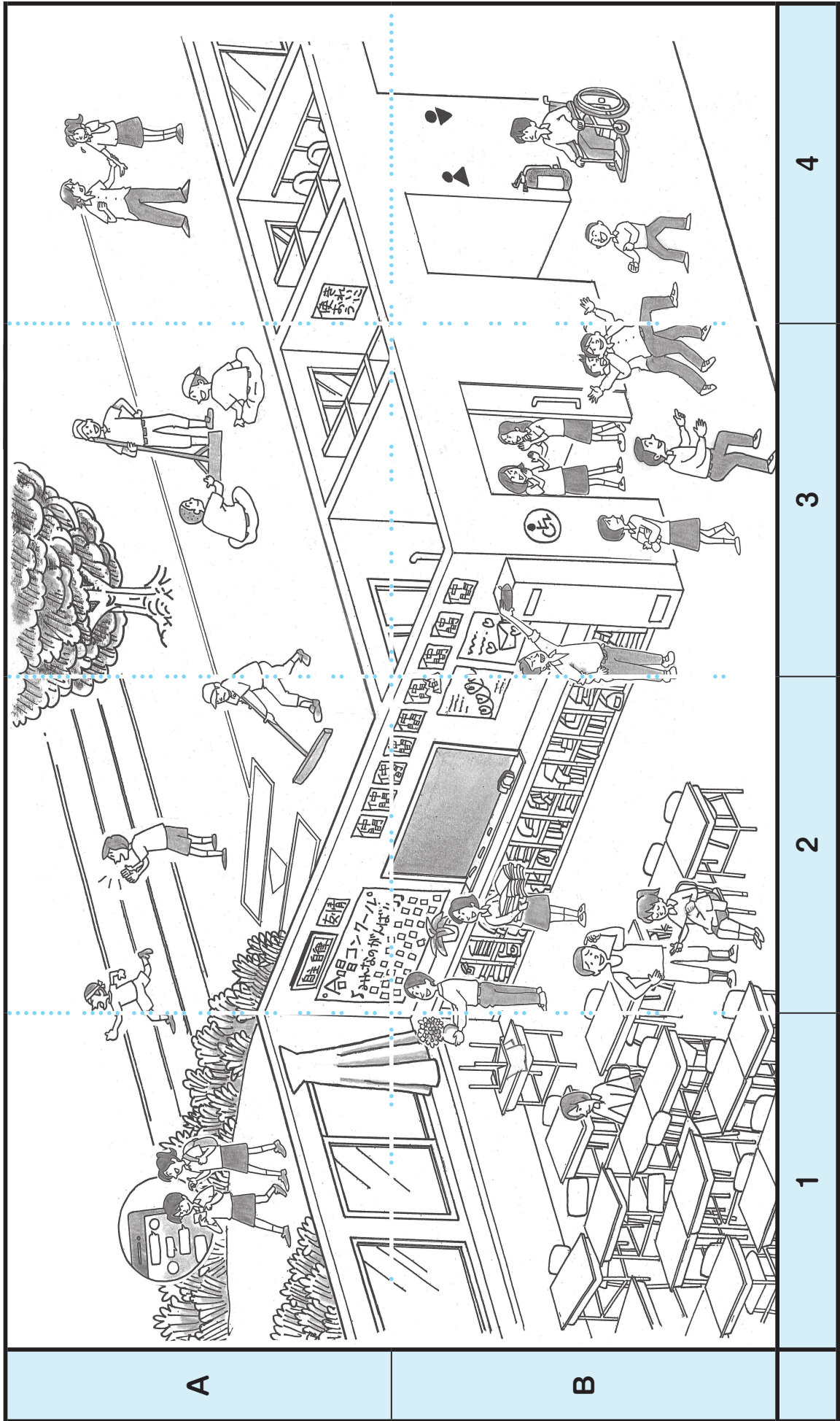
場面 (例：A - 1)	理 由

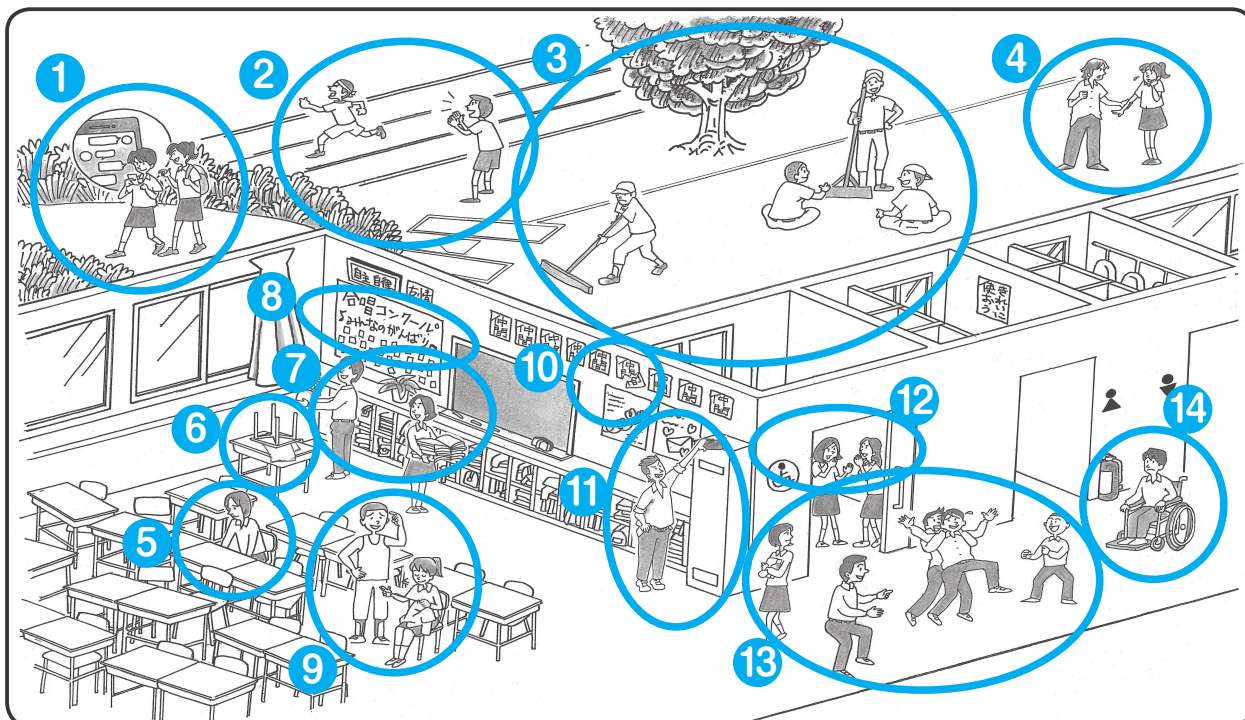
ウ 人権が侵害されている場面

場面 (例：A - 1)	理 由

- 2 授業を通して考えたことや、気づいたことを書きましょう。

よく見てみよう





(同じ場面でも異なる捉え方ができる場合もあります。)

- ① スマートフォンの無料通話アプリや SNS を使った誹謗中傷、いじめが想定される。
- ② 他の人ががんばっている姿を見て、励ましの声かけをしている。
- ③ 一人の生徒だけがグラウンド整備をしていることから、疎外やいじめが想定される。
- ④ 交際相手からの暴力（いわゆるデートDV）やセクシュアル・ハラスメントが感じられる。
- ⑤ 一人で何かを悩んでいる様子が感じられる。
- ⑥ 配付プリントや机が放置され、欠席をしている生徒に対する配慮がされていない。
- ⑦ 男子は荷物を運び、女子は花の世話をするというような性別による役割分担意識ではなく、それぞれが行える仕事をしている。
女子に荷物を運ばせている。
- ⑧ 掲示物から一人ひとりのがんばりを認め合い、互いを尊重している様子が感じられる。
- ⑨ 困っている人に対して親切にしている。
裁縫は女性がやるという性別による役割分担意識が感じられる。
- ⑩ 掲示された作品が大切にされていない。
- ⑪ ものを隠す行為からいじめが想定される。
- ⑫ 誰もが使える「みんなのトイレ」ではあるが、本当に必要としている人が使えない状況。
- ⑬ 羽交い締めにされていたり、周りで取り巻きはやしたてたり、少し離れて見て見ぬ振りをしていたりするなど、いじめにつながる。
- ⑭ ⑫⑬とあわせて、車椅子を使っている生徒が通れなかったり「みんなのトイレ」を使用できなかったりと、配慮がされていない。

災害発生時の人権

11

すべての人の人権が守られる
避難所にするために

1 ねらい

避難所生活で生じる問題について考えることを通して、災害発生時においても互いの人権を尊重することの大切さに気づく。

2 準備するもの

○ワークシート

3 解説

すべての人の人権が尊重される社会をつくるためには、一人ひとりが様々な場面や状況の中で、自他を大切にできる具体的な態度や行動をとることができるようにならなければなりません。しかし、災害発生時には、誰もが切迫した状態にあり、強い不安やストレスが重なることから、人権に対する意識が薄らいでしまうことがあります。その結果として、乳幼児や妊婦、障害者、高齢者、外国人などいわゆる災害弱者への配慮が不足し、時には心ない言動につながることも考えられます。

このワークでは避難所における問題や、特別な配慮を必要とする人の状況を考えることを通して、どのような場面でも互いの人権を尊重して行動することの大切さについて理解を深めるようにしています。

4 進め方（展開例） 50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 7分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（5分）</p> <p>「困ったことは何ですか？」</p> <p>①街の施設や交通機関などで、困ってしまった経験や、困っている人を助けた経験があるか考える。</p> <p>②①について、グループで順番に話す。一人が話した後で、他のメンバーで同じような経験があれば話す。</p> <p>③まとめの話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4人程度のグループで行う。 次の内容を参考に、いくつか例示してもよい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 足をケガしていたときに、エレベーターが混んでいてしばらく乗れなかった。 外出したときに親とはぐれてしまい、迷子になってしまった。 ショッピングセンターで、トイレを探している人に場所を教えた。 </div> <ul style="list-style-type: none"> グループで出た内容について全体で聞き、共有してもよい。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 場所や状況によって、誰にでも困ってしまうことがあることに気づく。 同じ状況になったら、自分も同じように困ってしまうかもしれないことに気づく。 </div>	

<p>展開 40分</p>	<p>◆アクティビティ (40分)</p> <p>「すべての人の人権が守られる避難所にするために」</p> <p>①場面の状況を聞く。 ②避難所に避難した場合、自分はどのようなことに困るのか考え、ワークシートに書く。</p> <p>③②について、グループで意見交換をする。</p> <p>④③について、全体に発表し共有する。</p> <p>⑤日常生活と比べ、避難所の生活は不便なことが多いことを確認する。 ⑥避難所におけるトイレの問題としてどのようなものがあるか考え、ワークシートに書く。</p> <p>⑦⑥について、グループで意見交換をする。 ⑧⑦について、全体に発表し共有する。 ⑨「～東日本大震災のある被災者の体験～」を聞く。</p> <p>⑩災害時において、自分や他の人が無理がまんをせず、安心して生活ができるようにするために、自分が普段から心がけておくべきと思うことについて考え、ワークシートに書く。 ⑪⑩について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の生活の厳しさを自分のこととして考えられるように、困ることを自分ではがまんできることと、がまんできないことに分けて書くように伝える。 意見は、この後グループごとに発表することを伝える。 グループの中で、同じ内容が「がまんできる」「できない」に分かれた場合は、どちらかにまとめる必要はないことを伝える。 発表内容を「がまんできる」「できない」に分けて簡潔に板書する。 避難所の生活の厳しさが理解できるよう、必要に応じて、資料1を参考に補足する。 ④の内容から、トイレに関する問題に焦点をあてる。 自分だけでなく、様々な人たちの視点で考えるように伝える。 必要に応じて、資料2を参考に補足する。 体験談にある被災者の気持ちや資料3を参考に、特別な配慮や援助を必要とする人やその内容について説明し、その気持ちに寄り添うことの大切さを理解するように促す。
<p>まとめ 3分</p>	<p>◆まとめ (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して生徒から出された意見などをもとに、ねらいをおさえまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 災害発生時においても互いの人権を尊重し行動することが大切である。 同じ環境下でも、人によって自由や安心の度合い、必要な支援がちがうことに気づき、真の平等の意味を考えることが、すべての人の人権の尊重につながることを理解する。 </div>

すべての人の人権が守られる避難所にするために

()年()組 名前 ()

12月の寒い日、地震が起きました。自宅は壊れ、中に入ることはできないため、外出先から、そのまま近くの学校に避難をすることになりました。

学校に着くと体育館に案内され、入り口で毛布1枚、クラッカー1袋、水500mlが一人ひとりに配られました。床に毛布を敷いて座っていると、次々と人がやってきて、体育館はみるみる人でいっぱいになりました。停電と断水のため、夕方になると体育館は真っ暗になり、水道の水は使えませんでした。

不安な夜を過ごし、眠れないまま朝がやってきました。その日は、乾パンと水500mlが配られました。避難から3日目、ようやく家庭ごとのスペースに高さ1mの間仕切りができました。さらに、食事の配給が始まり、朝昼晩と食事ができるようになりました。

- 1 もしあなたが避難所に避難したら、普段の生活と比べてどんなことに困ってしまうと思いますか。がまんできることと、がまんできないことに分けて書きましょう。

困ってしまうと思うこと

「不便だな」「いやだな」と思うけれど、がまんできること	:	絶対にがまんできないこと
	:	
	:	
	:	
	.	
	.	
	.	

2 避難所でのトイレの問題について、どのようなものがあると思いますか。

～東日本大震災のある被災者の体験～

Aさんは重度の障がいがあり車椅子で生活をしています。Aさんは東日本大震災の被災者の一人で、避難所での体験を次のように話してくれました。

「仮設のトイレに行きたいと思っても、段差があり、かつ手すりがないので行くことができなかった。」

また、他の避難所では、「仕方なくポータブルトイレを持ち込んだら、狭い避難所内なのでケガをしたらどうするのだと言われ、許可されなかった。私の知り合いは、水分と食べ物を控えたため病気になってしまった。せめて他の人に許される最低限度のことは、私たち障がい者もできる環境を作りたい。そう思い何か提案すると『みんな困っているのだからがまんしなさい。みんなががまんしているときにぜいたくを言うな』と言われた。私の生活に最低限度必要なものやプライバシーの保護をお願いしているのであって決して甘えたりわがままを言っているのではない。同じ環境下においても、障がいのある人とない人では与えられる自由や安心の度合いが違う。このそもそものスタートラインの違いを無視しておいて、何をもって平等というのか、よく考えてほしい。」

「人権学習資料 31 災害と人権～災害に強い社会をつくるために～」(一部変更しています)
公益社団法人鳥取県人権文化センター (平成 24 年 12 月)

3 災害時において、自分や他の人が無理ながまんをせず、安心して生活できるようにするために、あなたが普段から心がけておくべきことはどんなことだと思いますか。

◆プライバシーに関すること

- 多くの人が体育館など同じ場所で生活をともにするため、プライバシーが確保されない。
- 人目を気にせずに、着替えや授乳をすることができる個室を確保する必要がある。
- マスコミなどの取材に対して、取材を受けたくない人もいるし、取材を受けてもよい人でも訴えたい内容はそれぞれ異なるため、ストレスやトラブルが起こる。
- 自宅周辺の被害状況、知人・隣人の安否情報、物資などの配給状況、ライフラインの復旧状況などについての正しい情報をどのように確保するか。

◆食事に関すること

- 配給される食事が、毎日同じ食べ物（冷たいおにぎりなど）になることがある。
- 配給される食事に対して食物アレルギーがある場合がある。
- 食事の配給で長時間並ばなければならないことがある。

◆健康・衛生に関すること

- 夜間にトイレなどに行くときに、足音や懐中電灯の光などにより、周辺の人が睡眠を阻害される。
- プライバシーが確保されることや、冷暖房が効きやすく暑さ寒さをしのぎやすいことから、自家用車で避難生活を送る人が多いが、エコノミークラス症候群（※）で亡くなる事例が出てくる。
- 風邪やインフルエンザなどの蔓延防止に、マスクの着用や手洗い、うがいの励行、十分な換気などが必要になる。
- トイレと生活空間の履物をしっかりと分ける必要がある。
- 防寒対策として体育館に畳やマットなどが必要になる。
- 生活水の不足などにより、洗濯や入浴が十分にできない。
- ハウスダストによってアレルギーが出る場合がある。

※ エコノミークラス症候群…食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間座っていて足を動かさないと、血行不良が起こり、血液が固まりやすくなり、その結果、血の固まり（血栓）が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発する恐れがある。

<参考資料など>

「避難所アメニティの向上に係る検討会（報告書）」静岡県危機管理部（平成 20 年 3 月）

「避難所における トイレの確保・管理ガイドライン」内閣府（防災担当）（平成 28 年 4 月）

「エコノミークラス症候群予防のために」厚生労働省ウェブサイト

- 仮設トイレが、狭い、暗い、手すりがない、和式が多いなど、高齢者や障害者、負傷者など介助が必要な人が使いにくい。（段差があると、汚れた段差に手をつけて上らなければならないことにもなる。）
- 朝などは行列ができ、立って並ぶのがつらい高齢者や障害者も長時間並ばなければならない。
- 和式に慣れていなかったり、使用の方法が分からなかったりして、外国の人などが使用に困る。
- 内部障害者は、他の人がその状況を理解しにくかったり、自分から申し出がしにくかったりして、困ってしまうことがある。

- ・人工肛門などのある人のための汚物流し台や、乳幼児などのオムツ交換台などが無い。
- ・カギの操作がしづらいことがある。
- ・バキュームカーが来ず、汲み取り型のトイレのし尿処理がスムーズになされない。
- ・トイレトペーパーが詰まって、そのままになってしまうことがある。
- ・暑さ寒さが厳しいと、屋外に設置されたトイレの使用が困難になる。
- ・上水道が止まっている場合は、流す水をプールなどから運んでこなければならない。
- ・照明がなく、暗闇での使用で汚してしまったり、危険な思いをしまったりする。
- ・掃除がされず汚れて衛生状態が悪くなる。消毒されないなどし、感染症が広がる。
- ・強風で、屋外に設置された組み立てトイレが壊れてしまう。
- ・臭気が強かったり、便座が冷たかったりして、使いづらい。
- ・トイレになるべく行かないようにするために、水分摂取を控え、脱水症状や、エコノミークラス症候群を起こしてしまう。

<参考資料など>

「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」内閣府（防災担当）（平成 28 年 4 月）

資料 3

避難時における特別な配慮や援助が必要な人とその例

◆乳幼児のいる家族

- ・夜泣きをしても気にならない部屋や、授乳の場所を用意する。

◆女性

- ・専用のトイレや、着替え、授乳の場所を確保する。また、女性専用の相談窓口を設置する。

◆障害者

- ・段差がなく、用を足しやすい広さの洋式トイレを用意する。
- ・視覚に障害がある人には、連絡を掲示など文書だけで行わず、放送や直接伝えるなどする。また、部屋の出入り口近くなど、移動しやすい場所を居住スペースとして割り当てる。
- ・聴覚に障害がある人には、連絡を放送だけで行わず、掲示や直接伝えるなどする。また、緊急時のサイレンや音声情報があった場合はどのようにするか確認しておく。
- ・知的障害や自閉症・情緒障害などがある人は、集団生活に対して不安やストレスを強く感じることもあるので、落ち着いて過ごせるスペースを提供する。

◆高齢者

- ・乾パンなどの固形食だけでなく、食べやすい食事を用意する。
- ・段差がなく、用を足しやすい広さの洋式トイレを用意する。

◆外国人

- ・生活習慣に配慮する。
- ・掲示や案内、放送などを複数の外国語でも行う。掲示などは理解しやすい日本語表現や、漢字にふりがなをふるなどする。また、相談窓口に通訳を配置する。

<参考資料など>

「TOKYO 人権 第 50 号」公益財団法人東京都人権啓発センター（平成 23 年 7 月）

「中学生向けの危機管理・防災に関する教材」埼玉県危機管理防災部危機管理課（平成 25 年 4 月）

ともに生きる社会かながわ憲章

～この悲しみを力に、ともに生きる社会を実現します～

平成 28 年 7 月 26 日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において、大変痛ましい事件が発生しました。

このような事件が二度と繰り返されないよう、私たちはこの悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、ここに「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めます。

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日
神奈川県

人権学習ワークシート集

一人権教育実践のために 第 15 集（小・中学校編）

発行年月日 平成 29 (2017) 年 2 月
発 行 神奈川県教育委員会
編集責任者 教育局行政部行政課長 舘 聡彦
印 刷 所 亜細亜工業写真株式会社

